

第4次大阪市エイズ対策基本指針 年度(年次)別目標値について

|   | 令和2年度<br>実績値 | 年度(年次)別目標値 |         |         |          |                  |
|---|--------------|------------|---------|---------|----------|------------------|
|   |              | 令和4年度      | 令和5年度   | 令和6年度   | 令和7年度    | 令和8年度<br>(最終目標値) |
| 大目標   |              |            |         |         |          |                  |
| 新規エイズ患者報告数 ※1                                 | 19人          | 19人        | 19人     | 18人     | 17人      | 16人以下            |
| 副次目標  |              |            |         |         |          |                  |
| HIV検査受検者数                                     | 8,540人       | 9,232人     | 9,924人  | 10,616人 | 11,308人  | 12,000人以上        |
| MSMのHIV検査受検者数                                 | 2,377人       | 2,615人     | 2,852人  | 3,090人  | 3,328人   | 3,500人以上         |
| 新規報告数(HIV感染者+エイズ患者)に<br>占めるエイズ患者の割合 ※1        | 21.6% ※2     | 20%以下      | 20%以下   | 20%以下   | 20%以下    | 20%以下            |
| 1 正しい知識の普及啓発                                  |              |            |         |         |          |                  |
| 大阪市ホームページ(HIV等検査のページ)<br>の閲覧数                 | 84,155回      | 88,363回    | 92,571回 | 96,778回 | 100,986回 | 105,000回以上       |
| MSMの過去6か月間のコンドーム常用割合                          | 30.1%        | 31%        | 32%     | 33%     | 34%      | 35%以上            |
| MSM受検者で過去に検査を受けたことのある<br>方のうち過去1年の間に受けている者の割合 | 61.1%        | 62%以上      | 64%以上   | 66%以上   | 68%以上    | 70%以上            |
| SW受検者で過去に検査を受けたことのある方<br>のうち過去6か月の間に受けている者の割合 | 61.6%        | 62%以上      | 64%以上   | 66%以上   | 68%以上    | 70%以上            |
| 全市立中学校のうち、HIV研修を受講した<br>教職員が在籍する学校の割合         | 38.6% ※3     | 70%以上      | 70%以上   | 70%以上   | 70%以上    | 70%以上            |
| HIV研修受講後、受講内容を生徒の教育<br>に活かすと答えた教職員の割合         | 95.8% ※3     | 90%以上      | 90%以上   | 90%以上   | 90%以上    | 90%以上            |
| 2 HIV検査・相談体制の充実                               |              |            |         |         |          |                  |
| HIV検査受検者数                                     | 8,540人       | 9,232人     | 9,924人  | 10,616人 | 11,308人  | 12,000人以上        |
| MSMのHIV検査受検者数                                 | 2,377人       | 2,615人     | 2,852人  | 3,090人  | 3,328人   | 3,500人以上         |
| 3 HIV陽性者の生活支援のための保健・医療・<br>福祉の連携強化            |              |            |         |         |          |                  |
| 研修受講後、HIV陽性者の受け入れを肯定<br>した福祉関係者数              | 55.6% ※3     | 70%以上      | 70%以上   | 70%以上   | 70%以上    | 70%以上            |

注) ※1の実績値及び目標値は、年度(4月～翌3月)ではなく年次(1月～12月)である。

注) ※2の実績値は、平成29年から令和2年までの平均実績値である。

注) ※3の実績値は、平成29年度から令和2年度までの平均実績値である。

## 【用語解説】

### 《あ行》

- エイズ（A I D S : Acquired Immunodeficiency Syndrome : 後天性免疫不全症候群の英語標記）

H I V（ヒト免疫不全ウイルス）に感染し、免疫機能の低下により、感染症法における23の指標疾患の一つ以上が明らかに認められる場合をいう。

- エイズ治療拠点病院

平成5年厚生労働省は、地域におけるエイズ診療の中核的役割を果たすことを目的に、各都道府県2か所以上の拠点病院を選定するよう通知した。平成9年には、全国8ブロックに14のブロック拠点病院を整備した。さらに平成18年に各都道府県の拠点病院（ブロック拠点病院を除く）から、1か所を中核拠点病院に選定するよう通知した。大阪府下には現在、18病院ある（ブロック拠点病院1施設・中核拠点病院3施設・その他拠点病院14施設）。

ブロック拠点病院は中核拠点病院を、中核拠点病院は拠点病院を、それぞれ支援するものと位置づけ、中核拠点病院を中心に、各都道府県内における拠点病院間の機能分化を含めた医療提供体制の再構築を重点的かつ計画的に推進するように定められている。

なお、ブロック拠点病院は独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター、中核拠点病院は大阪市立総合医療センター、堺市立総合医療センター、地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センターがある。

- エイズ予防週間

大阪市では、大阪府・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市・八尾市・寝屋川市・吹田市と合同で、エイズ予防週間実行委員会を設置し、世界エイズデー（12月1日）を中心に、毎年11月28日～12月4日をエイズ予防週間と定め、H I V陽性者への偏見や差別をなくすため、H I V・エイズに関する正しい知識の普及啓発等をこの時期に展開している。

- エイズ予防財団

政府がまとめた「エイズ問題総合対策大綱」について、その事業の一部を実施するため、民間の協力の下、昭和62年6月に厚生省（当時）の許可を得て、設立。

H I V感染症・エイズに関して、正しい知識の普及啓発、予防・診断・治療等の研究の支援、情報の収集・提供、国際交流の推進等を通じてその予防とまん延の防止を図るとともに、エイズ等の流行に影響を受けている人々の人権の尊重と偏見・差別の解消に努め、もって国民の保健福祉の向上に寄与することを目的に活動している。

- H I V（Human Immunodeficiency Virus : ヒト免疫不全ウイルス）

ヒト免疫不全ウイルスの英語標記の略称。人の免疫機能の中核的な細胞に感染することにより、人の免疫機能を低下させる。

●H I V感染者

感染症法に基づく報告時に、エイズ診断の指標となる疾患は発症していないが、H I Vに感染している状態の者をいう。

●H I V陽性者

H I V検査の確認検査が陽性であり、感染している状態の者をいう。ここではエイズ発症の有無を問わない。

●SNS (Social Networking Service)

インターネットを介して、ユーザー同士がコミュニケーションを図るサービスをいう。共通の趣味等を持つユーザー同士が容易に知り合うことができ、広く社会に情報発信を行うことができる。

●NGO等 (非営利組織又は非政府組織)

NGO (Non-Governmental Organization)は、もともと国連の場で使われていたことに由来し「非政府組織」と訳す。政府や国際機関とは違う民間の立場から営利を目的とせず世界的な諸問題に取り組む団体を指す。

NPO (Non-Profit Organization)は、「非営利組織」と訳し、民間の立場から営利を目的とせず社会的使命を達成することを目的にした組織のことを言う。特定非営利活動促進法に基づき法人格を付与されたものを特にNPO法人と呼ぶ。

なお、本指針でいうNGO等には、H I V陽性者支援団体やH I V陽性者がピアサポートを展開している団体を含む。

●MSM (Men who have Sex with Men)

男性間で性的接触を行う者。

《か行》

●ケアカスケード

2014年9月に国連合同エイズ計画が2030年までにH I V・エイズをコントロールするために提唱した行動目標。その中で、2020年までに全H I V陽性者の診断率を90%以上とし、そのうちの90%を定期的な受診に結びつけ、そのうち90%が有効な治療結果を得られることを目標とする「90-90-90」という目標が示された。

●抗H I V療法

抗H I V作用を有する薬剤による治療。現在では3~4剤を組み合わせ併用する抗レトロウイルス療法 (ART : Anti-Retroviral Therapy) が治療の標準となっている。

●国際連合エイズ合同計画 (UNAIDS)

H I V/ エイズ感染に対して包括的かつ調整の取れたグローバルな行動を進める国連の

機関。H I Vの新たな感染を減らし、エイズ流行のピーク時よりエイズ関連の死亡者数を減らし、エイズの感染はもはや死の宣告ではなく、対処可能で慢性的な症状であることを証明するために重要な役割を果たしている。UNAIDSは、H I Vの新たな感染ゼロ、差別ゼロ、エイズ関連死者ゼロの共通のビジョンを達成できるように世界を導き、かつそのように仕向ける役割がある。

#### ●コミュニティセンター

厚生労働省が委託する「同性愛者等のH I Vに関する相談・支援事業」であり、同性愛者等に対し、H I V・エイズに関する情報提供を行っている。ゲイ・バイセクシャル男性が利用する商業施設が集積する地域にあり、ゲイバー、ハッテン場、ゲイショップ、メディア、サークルなどのネットワークを介したNGO等のコミュニティベースの啓発活動を実効的に進める活動拠点である。大阪市には、北区堂山の「dista」、中央区東心斎橋の「chot CAST」がある。

#### 《さ行》

#### ●CD4値（CD4陽性リンパ球数）

H I V感染症では、血中ウイルス量とCD4陽性リンパ球数が病態の程度や経過を把握する指標となる。CD4陽性リンパ球数は、H I Vによって破壊された宿主の免疫応答能の残存量を示し、その時点における病態の程度を把握する指標となる。

健康成人では、700～1300/mm<sup>3</sup>であり、H I Vに感染し200/mm<sup>3</sup>未満となると免疫不全状態となり、種々の日和見疾患を発症しやすくなる。

#### ●持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）

2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であり、17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っている。

世界エイズ戦略と明確に関連する10項目の持続可能な開発目標は以下の通り。

- 目標1 貧困をなくそう / 目標2 飢餓をゼロに / 目標3 すべての人に健康と福祉を
- 目標4 質の高い教育をみんなに / 目標5 ジェンダー平等を実現しよう
- 目標8 働きがいも経済成長も / 目標10 人や国の不平等をなくそう
- 目標11 住み続けられるまちづくりを / 目標16 平和と公正をすべての人に
- 目標17 パートナリシップで目標を達成しよう

#### ●スティグマ

「他者や社会集団によって個人に押し付けられたマイナスな表象・烙印」という意味であり、身体的障害者、精神疾患患者、高齢者、同性愛者、血友病患者などのマイノリティーやその家族にいわれのない差別や偏見が烙印（スティグマ）として焼き付いてしまう事として知られている。スティグマがH I V感染を心配する人たちを検査や治療から遠ざけ、また、差別や偏見を招く要因の一つになっているとも言われている。

## ●性感染症

性的接触によって感染する病気をいう。STD (Sexually Transmitted Diseases) またはSTI (Sexually Transmitted Infections) と呼ばれる。HIV感染症・梅毒・淋菌感染症・性器クラミジア感染症・性器ヘルペス等がある。

## ●性的指向

誰を恋愛や性愛の対象とするかをいう。おおまかに「異性愛」「同性愛」「両性愛」に分類される。

## ●セーフターセックス

HIVやその他の性感染症に感染するリスクを下げるように配慮した性行為。精液、膣分泌液、血液に直接触れないように道具を使用することやリスクの高い行為自体を避けることを指す。

## 《た行》

### ●ターゲット層

男性間で性的接触を行う者 (Men who have Sex with Men : MSM)、性風俗産業の従事者 (Sex Worker : SW)、薬物乱用者・依存者を個別施策層といい、個別施策層並びに性に関する適切な意思決定や行動選択に係る能力について形成過程にある青少年、言語的障壁や文化的障壁のある外国人をターゲット層と示す。

## 《は行》

### ●ハームリダクション

合法・違法に関わらず精神作用性のある薬物の使用量は減ることがなくとも、その使用により生じる健康・社会・経済上の悪影響 (ハーム) を減少 (リダクション) させることを主たる目的とする政策・プログラムとその実践。海外で行われている注射針・注射器交換プログラム、オピオイド代替療法などのハームリダクションサービスのみならず、健康問題や生活上の困りごとに対する相談支援など、薬物使用の結果生じる健康被害や社会的弊害を低減することである。

### ●曝露前予防投薬 (P r E P)

Pre-Exposure Prophylaxis の略で、HIVに感染していないが今後感染するリスクの高いと考えられる人が、抗HIV薬を服用することによってHIVに感染するリスクを下げる予防方法をいう。我が国では予防目的での抗HIV薬の薬事承認はなされていない。

### ●府内の保健所設置市

大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市・八尾市・寝屋川市・吹田市

### ●米国疾病管理予防センター (CDC)

アメリカ合衆国保健福祉省の下部機関。アメリカ国内外における人々の健康と安全の保護を

主導する立場にあり、健康に関する信頼できる情報の提供と、健康の増進を主目的として活動している。

## 《や行》

### ●薬物使用者

覚せい剤や麻薬、大麻、危険ドラッグ等の薬物を使用する者。

厚生労働省、麻薬・覚せい剤乱用防止センターは、ルールや法律から外れた目的や方法で使用するを「薬物乱用」と定義しており（覚醒剤や麻薬などは1回使用しただけでも乱用にあたる。）、国予防指針では、「薬物乱用・依存者」等、個別施策層は感染が拡大する危険性が高い特徴があると記載がある。

しかし、UNAIDSの用語ガイドラインでは、「薬物乱用者」を「侮蔑的な意味を含む用語であり、薬物使用者に接する際に必要な信頼感の醸成を妨げる」として、「薬物使用者」を用語として使用することを推奨している。このことから、本指針においては、「薬物使用者」と表記する。

### ●<sup>ニューヨークズユ</sup>U = U (Undetectable=Untransmittable)

2016年に米国のプリベンション・アクセス・キャンペーン (Prevention Access Campaign: PAC) と呼ばれる団体がリーダーシップをとり、HIV陽性者、活動家、研究者が協働して作成した「コンセンサス声明」に基づいている。

抗HIV療法を継続することで、血中のウイルス量が200 copies/mL未満の状態を6か月以上維持している状態のHIV陽性者（「Undetectable：検出限界値未満」）は、他の人に性行為を通じてHIV感染させることは一切ない（「Untransmittable：HIV感染しない」という、科学的に根拠づけられた事実を、わかりやすく、そして世界的に伝えるメッセージである。

### ●郵送検査

通信販売などでキットを入手し、自己採取した検体を検査会社に送付し結果を得る検査方法のことをいう。